

その4：留学生支援編

今回は「留学生支援編」として、留学生支援グループのコーディネーター（CN）に主な活動やその思いについて伺いました。

1. ABICにおける留学生支援とは？

留学生支援グループの主な業務は、2001年に開館した日本学生支援機構が管理運営を行う東京国際交流館の入居者への支援です。東京国際交流館には、現在約85カ国・地域、約1,000人の外国人留学生とその家族等が入居しており、その入居者を対象に週18クラスの「日本語広場」、月1回の茶道・華道・書道・囲碁・将棋・空手を教える「日本文化教室」を開講し、今までに累計生徒数は延べ4万人になっています。

また、外国人入居者家族の健康管理、通院、妊婦支援・育児相談・子供の入園・入学の生活支援のため、ボランティア通訳を年間約150回派遣しております。さらに年1回のサマーフェスティバル、年2回のバザーの運営支援を行っています。

交流館とは別に、東京外国語大学の外国人客員教授や家族、双日の外国籍社員への日本語指導支援も行っています。

2. 留学生支援から広がった活動があるとのことですが？

二つあります。

一つは官の対応がなかなか追いついていない、生活者としての外国人に対する日本語教育です。ABICは異文化・異言語経験が豊富な会員や会員家族を対象に、ボランティア教師としての能力アップを目指して、6カ月の短期集中型「日本語教師養成講座」を実施し、これまで約240人が講座を修了していて、その多くが内外の日本語教育現場で活躍しています。

もう一つはアセアン10カ国と台湾向けの日本語教師派遣です。この事業の中核である国際交流基金からの要請で、当初からABICは事業委員に就任し、派遣事業に協力するとともに会員・家族の応募・派遣の支援を行っています。この事業は2020年までに3,000人の派遣を目指しており、2020年以降も継続されるとみられます。年齢的にハードルが高い中で、ABICからの推薦者はこれまでに十余人が現地で活躍しています。

3. CNのやりがいは？

ABICの会員のかなり多くの方が、海外駐在を経験しています。その駐在地で、現地の数多くの人との出会いがあり、交流があり、そして慣れない土地での生活に現地の方からいろいろと支援を受けた経験があります。

CNは、日本語広場、日本文化教室の講師、生活支援活動を行っているボランティア会員と一緒に、今では立場を変えて、日本に来る留学生やその家族に、日本語、日本文化を「教える楽しさ、学んでもらう楽しさ」を体感してもらうこと、生活支援では「困った時の手助け」をやりがいとしております。

日本語を話せた時の笑顔、日本文化を真剣に学ぶ姿、日本で無事にお子さんが生まれた時の夫婦の安心した顔を見ることは、CN、講師、ボランティア共通の喜びです。

4. CNが大切にしていることは？

CNが大切にしているのは、留学生やその家族との心の通った「交流」です。CN、講師、ボランティアは、支援活動を通して、留学生やその家族と個人名で呼び合える関係をつくっていたり、留学生の卒業論文の相談に乗ったり、時には飲食を共にしたり、「日本を知ってもらいたい、好きになってもらいたい」という気持ちを持った、日本での生活の道先案内人となっています。

CNは、「一期一会」という言葉も大切にしています。「日本語広場」「日本文化教室」に1回しか来られない、あるいは「生活支援」を1回しか受けられない留学生とその家族がいるかもしれない、でも、その1回が心に残り、自国に帰った時に、「日本への良い印象、日本での良い思い出」になればと思っています。

留学生およびその家族が「日本との懸け橋」になってくれることを期待しています。



左から坂本CN、田中CN、楯形CN

留学生支援に関する問い合わせ先
abicodeiba@abic.or.jp